

No.12

## 株式会社 SHONAI

まちづくり推進室 室長

### 長岡 太郎

第2期生



#### 移住という決断

長岡さんは寒河江市出身。前職であるNHKに入局した翌年、東日本大震災があった。函館支局からの派遣で取材にあたった長岡さんは、大切な人を亡くされた沢山の方々と向き合うことで、東北に対して特別な想いを抱くようになった。転勤希望を出したところ認められ、山形局↓鶴岡支局へと赴任することになった。「当初の鶴岡のイメージは寒村そのもの。ただ、慶応先端研を中心に、なぜこれほどの優秀な人材が集まるのか不思議に思っていました。」と話してくれた。ある日、市内の飲食店で、「鶴岡が熱い」と熱弁する山中大介氏に出会った。取材を通じ、地方創生の在り方に限界を感じる中、ひと際輝いて見えたヤマガタデザイン(現:SHONAI)に魅力を感じ、安定した職から前人未到のビジネスモデルに飛び込むことを決めた。「でも、実際に転職するまでの期間、不安に思うこともありました。」と当時を振り返る。そんな中、慶応先端研でベンチャーを立ち上げたある社長から言われた言葉がある。「上手くいくかは誰にも分からないけど、上手くいくように自分が努力することはできる。」この言葉に背中を押され、長岡さんは鶴岡への移住を決意することとなる。

#### 挑戦とサステイナビリティ

長岡さんが移住を決意したもう一つの理由に「庄内が持つポテンシャル」がある。NHK勤務時代、鶴岡市がミラノ万博に出展するという情報を得た。取材を希望したが、地方局から海外に取材に行く前例がなかったため、調整は難航した。「もう自腹で行って撮ってくる」という啖を切った覚悟が認められ、海外出張の許可が降りた。そこで、奥田政行シエラ、出羽三山の山伏、シルクやしな織りの継承と普及に取り組む方々や、地域の経済人との交流があった。「より良いものを求め品種改良を続けてきたただだちや豆等の在来作物。シルクやしな織り、精神文化や食文化。次々と新たな技術を生み出すバイオベンチャー。庄内はサステイナブルという言葉が一般化するずっと前から、挑戦とサステイナビリティに溢れていたんです。」こうした様々なポテンシャルを繋ぎ、融合させられるSHONAIという企業。その強みを活かして、庄内をもっと豊かで希望溢れる土地にしたい。この想いが長岡さんを駆り立てる原動力になっている。

#### 不利。だから「じゃやなー」!

入社当時、会社の広報を担当していた長岡さん。現在は企業向けの再生可能エネルギー導入を支援するプロジェクト「SORAIソーラー」に「ミット」している。企業の太陽光発電設備導入をコンサルし、「コストカットできた光熱

費の中から手数料を收受。その収益はSHONAIが運営するキッズドームSORAIの運営費や、県内の高校生が部活動形式でAIを学ぶ「やまがたAI部」の活動支援に役立てられる。事業の収益が地域の未来を担う子供たちの教育にも繋がる三方よしのビジネスモデルだ。しかし、地方で実現するのは決して簡単ではない。日照時間フランクで常に最下位付近の山形において、太陽光発電は収益化が難しい。また、大企業に比べ資金力に乏しい地方の中小企業をターゲットとしていることも、このビジネスを難しくしている。だがSHONAIは「プロジェクトを推進する。これは「圧倒的な当事者意識」による地方創生を掲げるSHONAIにしかできないビジネスだ。長岡さんは今、そんなプロジェクトの中心で奮闘している。

#### 若手経営者塾について

移住してきた長岡さんにとって、若手経営者で得られた繋がりは貴重だった。特に、卒業式に来賓として参加していた、県の関係者との繋がりが後の行動に大きな影響を与えた。以前からアイデアを持っていた「アドベンチャーツーリズム」の企画アイデアを話したところ、僅か数ヶ月で具現化された。長岡さんのアイデアが全県を上げた取組みに発展したのだ。それに呼応するように長岡さん個人が企画・開催したイベント、「ツルバル」についても紹介したい。鶴岡市内の飲食店を巻き込み、イベントチケットを発行。購入すると、対象店舗では「しこ酒」を楽しめるというイベントだ。これまでに2回実施し、合計の参加人数はなんと600人!。これだけの人が地域で飲食し、地域にお金を落としたのだ。

そして今、「はしこ酒」という概念を広く普及させることをミッションに長岡さんは行動する。地域内外の人が庄内の飲食店を訪れる機会を増やすことで、飲食店が潤い、地域内外に庄内の食の豊かさを伝えることができる。信じ、SNSでの発信等精力的に活動している。「未来を変えるのは行動!若手経営者塾で平尾塾長が繰り返し伝える、行動することの大切さを長岡さんは体現している。

#### 庄内(SHONAI)への想い

地区外から移住してきた長岡さんは、誰よりも庄内を愛し、そのポテンシャルを信じている。「挑戦の気風があり古くからサステイナブルな仕組みがあった庄内だからこそ、この先もそうあり続けたい。」長岡さんの願いはヤマガタデザインからSHONAIへの社名変更に込められた、「庄内で生まれ、発展してきた当事者意識」、「地方の希望でありたい」という想いとリンクし、庄内の未来へと繋がっていく。

